



# 大北小だより

臨時号  
平成 28年11月10日  
練馬区立大泉北小学校  
校長 内木 勉

## 学力向上を図るための調査結果

今年度の学力調査の結果をお知らせします。現在、調査結果を分析し全教員で授業改善のためのプランを作成しました。以下は、学力調査の結果と課題および改善策です。

※数値の左の記号は、◎：都平均より+5以上、○：都平均より+3～+5、  
▲：都平均より-5以下、△：都平均より-3～-5、の際に記しています。

### 1 6年生 全国学力・学習状況調査 4月19日実施

#### (1) 国語

##### ア 知識

	関心・意欲・ 態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能	国語全体
大北小		◎85.3	◎83.3	◎85.3	70.6	75.2
都		81.6	77.2	79.9	71.2	73.8
全国		79.2	72.8	78.5	71.1	72.9

言語についての知識・理解・技能の観点を除き都・全国の平均を上回りました。

「言語についての知識・理解・技能」の解答を見ますと、ほとんどの問題で都と変わらない正答率でしたが、ローマ字を書く問題が都の平均値から9ポイント下回っていました。今後は、既習の事項ですが、機会をみて書く作業を学習に取り入れ、誤りなく使えるようにしていきます。

昨年の児童質問紙の回答からは、読書活動が十分ではないという課題も見られました。本に親しむ活動を充実させてきたこともあり、今年度は読書好きの児童が増えました。今後も読書活動の充実を図っていきます。

##### イ 活用

	関心・意欲・ 態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能	国語全体
大北小	◎58.5		○59.6	○73.9		◎64.8
都	52.7		55.2	70.7		59.8
全国	51.1		53.4	69.3		57.8

10題の設問の中、全ての設問で都・全国の平均値を上回るなど良い結果を得ることができました。学習したことを活用する力を伸ばせるように、他教科における話し合いや新聞にまとめる作業など、意図的に国語で培った力を用いる場面を設定していきます。

## (2) 算数

### ア 知識

	数学的な考 え方	数量や図形に ついての技能	数量や図形につ いての知識・理解	算数全体
大北小		<b>84.3</b>	<b>○82.4</b>	<b>○83.0</b>
都		83.5	77.6	79.4
全 国		82.5	75.4	77.6

設問ごとの正答率をみると、4枚の定規で作ることができる形を選ぶ設問以外は、都や全国を上回りました。図形の構成要素を確認し、そこからどのような図形が作れるか等について、作業的な学習も取り入れ、身に付けられるよう指導します。なお、今回の結果から今まで行ってきた授業の中で意見交換の場を充実させる、演習を増やし解く力を定着させるといった学習の有効性が確認できたので、継続していきます。

### イ 活用

	数学的な考 え方	数量や図形に ついての技能	数量や図形につ いての知識・理解	算数全体
大北小	<b>○46.1</b>	<b>◎64.7</b>	<b>◎77.9</b>	<b>○53.8</b>
都	42.8	58.8	72.6	49.8
全 国	40.9	53.3	69.5	47.2

各観点で都・全国を上回りました。13題の設問では、2つの設問で都の平均値に届きませんでした。具体的には、表やグラフから数値を読み取るだけでなく、事柄を特定したり理由を記したりする設問です。表やグラフを算数の授業で取り上げる際に、読み取ったことを話し合わせたり、なぜそうなるのか等についても考えさせたりする内容を取り入れます。また、算数ばかりではなく社会科をはじめ、表やグラフを用いて学ぶ機会をとらえて、同様の学習を行うことで力を伸ばしていきたいと考えます。

## 2 5年生 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 7月7日実施

※ 東京都の値は、速報値です

### (1) 教科の内容

	関心・意欲・態 度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む	
	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都
国語	89.0	<b>90.6</b>	81.0	<b>82.3</b>	▲41.3	<b>54.0</b>	<b>◎83.5</b>	78.0	<b>75.8</b>	72.9
社会	<b>93.0</b>	91.3	<b>59.7</b>	58.2	<b>◎86.3</b>	81.0	<b>◎87.0</b>	69.9		
算数	82.2	<b>82.6</b>	54.8	54.8	64.3	<b>64.9</b>	70.2	<b>72.6</b>		
理科	<b>96.1</b>	94.8	<b>○78.4</b>	74.2	<b>57.2</b>	56.4	<b>57.4</b>	56.4		

教科で見ると、社会、理科が良く、全ての観点で東京都を上回りました。以下、国語は5つのうち2つの観点が上回りました。算数は、1つの観点で都と並びましたが、残りの3つは下回りました。

全体的には、上回る観点多いという点で良い結果でした。本校では、「大北小スタンダード」として全校で統一した指導方法を5年間継続してきました。「大北小スタンダード」により、どの学年、どの学級、どの教員も一致した指導を積み重ねてきたことが、学習規律や生活習慣の定着につながり、学力の定着にもよい影響を与えたと考えます。

しかし、僅差とはいえ、算数では3つの観点で上回れない（1観点は同点）、国語の書くでは約13ポイント低いなど、課題も明らかです。

これらから、算数では、引き続き自分が考えた解き方を子供同士で伝え合ったり、計算の方法を確認したりすることを少人数指導で進めていきます。さらに、知識・理解、技能については、東京ベーシックドリルの活用をはじめとした演習の時間を増やして定着を図ります。国語の「書く」について、誤答の多い問題は、書きたいことが伝わるように適切な表現で書く力を問うものでした。漢字等の練習とともに、読書をはじめとして多くの表現に触れることで文章を書く力を養っていきます。

社会と理科については、現在の指導を継続していきます。また、今年度から東京ベーシックドリルを学習に取り入れ、学習の定着を図ってきました。これも継続します。加えて、興味や関心を引くような新聞記事や写真、ポスターなどを提示したり掲示したりすることで、学習環境の改善に努めていきます。

## (2) 読み解く力に関する内容

	取り出す力		読み取る力		解決する力	
	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都
国語	76.1	<b>78.2</b>	<b>76.1</b>	74.1	▲19.3	<b>33.1</b>
社会	◎ <b>86.8</b>	80.0	◎ <b>72.6</b>	65.5	○ <b>74.3</b>	69.7
算数	◎ <b>78.9</b>	70.6	<b>27.4</b>	25.0	<b>34.8</b>	33.3
理科	◎ <b>73.7</b>	66.1	○ <b>63.8</b>	60.5	<b>52.6</b>	51.1

社会、算数、理科とよい結果が出ました。これらの教科では、学力が向上しつつあることを感じます。現行の授業改善推進プランに基づいた授業改善を継続していきます。

国語の解決する力を問う問題の誤答を確認したところ、筆者の考えに沿うように前後の文章間に趣旨の合う文章を1つ選択する問題でした。今後は、演習で問題の形式に慣れるとともに、考えを一貫させた文章を書く、考えをもとに構成を考える等の機会を設けます。

## 3 児童の意識調査から（6年生調査結果の一部です）

※（ ）内は昨年度比です。ただし、（4）を除きます

### (1) 朝食

毎朝必ず食べると答えた児童が約96%（+3%）、全国平均は約88%（±0）でした。良い結果とも言えますが、40人の学級とすると2名前後が朝食を毎朝摂っていないこととなります。規則正しい生活が学校生活、学習の土台です。毎朝の朝食をバランスよく確実に摂るよう今後ともよろしくをお願いします。

### (2) テレビやDVD等の視聴時間（平日分）

4時間以上が約11%（-1%）、3時間以上4時間未満の児童が約13%（-1%）。2時間以上3時間未満の児童が約17%（-8%）、1時間以上2時間未満の児童が約35%（+8%）、1時間未満が23%（+7%）でした。全国や都の結果より少なめですが、テレビやDVDの視聴に加え、ゲームをしている、メールやインターネットをしていることも考えられます。実態に応じて各家庭でご検討ください。

### (3) ゲームをする時間（平日分 専用機器、携帯電話、スマートフォンを含む）

4時間以上が約2%（-5%）、3時間以上4時間未満の児童が約4%（-3%）。2時間以

上3時間未満の児童が約12%(+2%)、1時間以上2時間未満の児童が約24%(−2%)、1時間未満が28%(−2%)でした。これも、全国や都道府県の結果より若干少なめの結果でした。ほぼ、全体に減少しています。ただ、8割の児童が日々ゲームに触れているという実態も浮かびました。遊ぶ際の約束をご家庭でお考えください。

#### (4) 通話やメール、インターネットをする時間(平日分 ( )内の数値は都との比)

昨年は記載していませんでしたが、今年度より記します。4時間以上が約0%(−3%)、3時間以上4時間未満の児童が約2%(−1%)。2時間以上3時間未満の児童が約0%(−5%)、1時間以上2時間未満の児童が約5%(−4%)、1時間未満が12%(−1%)でした。これも、全国や都道府県の結果より少なめの結果でした。ヘビーユーザーはいないものの、30分以下の児童が52%います。なお、触れない(持っていない児童も含む)児童も、30%いました。結果を見ますと、各ご家庭でのルールが浸透しているのだと思われます。ただ、これから成長とともに(中学入学後など)どうなるか(どうするのか)は、状況に応じてご家庭で相談が必要です。練馬区や大北小ではSNSに関するルールを定め、ご協力をお願いしています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

#### (5) 家庭の学習時間(平日分)

調査の結果は、1日当たり3時間以上行う児童が約24%(+7%)。同じく、2時間以上3時間未満の児童が約12%(−4%)。1時間以上2時間未満の児童が約51%(+12%)。いずれも全国と都の平均を上回っています。ただし、休日はそれぞれの時間帯で割合が減っています。4人に1人が1時間未満(全くしないを含む)となっています。机に向かう習慣(ためらわずに向える習慣)を大切にしたいです。

#### (6) 読書(家庭での読書、図書館利用)

家庭で平日に30分以上読書する児童が約49%(+15%)、全国より7%高い状況です。年度ごとに上げ下げがありますので、一概に喜ぶには早いです。一方、図書館を利用する頻度として、月に1回以上利用する児童は約39%(+7%)、全国は40%でした。学区近くに図書館がある恵まれた状況でありながら、読書が身近になっていない状況が残念です。学校では、読書旬間にもとない行事を企画したり朝の時間に読書をしたりしています。ご家庭でも本に親しむ機会を設けてくださるようお願いいたします。

#### (6) 自分のよいところ

「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と79%(+7%)の児童が答えました。都や全国よりも3ポイント高い結果でした。年ごとに上下しますが、自分をプラスに捉える児童が増えることは嬉しい限りです。

目に見える数値的なものを基準に秀でている劣っているというのではなく、これから生き抜く一人として、自分の気持ちや努力を肯定的に捉え、前向きな心をもってもらいたいです。

学校では、児童が自分のよいところに気付くことができるよう、優しく素直な心を伸ばせるよう、頑張ったことや努力したことを認め励ます言葉をかけています。本当にちょっとしたことでいいのです。ご家庭でも同じように認め励ます言葉をかけてくださるようお願いいたします。